

1998/No.256

Offshore



目次

- 1 頁 執行部報告
- 8 頁 専門委員会報告
- 11 頁 各支部お知らせ
- 15 頁 事務局通信
- 15 頁 編集室より

NORCホームページ会員専用ページのアクセス方法

・NORCホームページのメニューで「会員専用」をクリックし、半角文字で
(1) ユーザー名にmember,
(2) パスワードにyachtと入力すると、
NORC会員専用のページに入ることができます。

OFFSHORE 256号

平成10年3月25日発行

発行 社団法人 日本外洋帆走協会

編集：本部会報小委員会

〒108-0014 東京都港区芝5-15-5 泉ビル4F

電話・東京03(3452)5812

FAX・東京03(3452)5815

ホームページ・<http://www.norc.com/>

編集制作協力 株式会社 舵 社

1部定価300円(郵送料別)

サーフィスイト

会館一口で 経営

1998-1999 1998-1999

品需必

受発注

受発注

受発注

受発注

受発注

受発注

受発注

受発注



執行部報告

2月21日開催理事会・代議員会の概要報告

常務理事 加藤正義

1998年度第2回理事会、1998年度第1回代議員会及び1998年度第3回理事会は、例年通り東京都港区虎ノ門の第1オカモトビル4F会議室で開催し、NORCの事業、予算決算、人事等について承認をいただきましたが、非常に残念でしたが、1998年度第1回総会(通常総会)は出席者及び委任状提出者数不足で流会となりました。この理事会、代議員会、総会の概要はつぎのとおりです。なお、今回の一連の会議には、現在NORCとJYAとの統合に関し双方から委員を出して検討を行っていることから、JYA員道昭理事長をオブザーバーにて招待し、全期間傍聴していただきました。

1) 1998年度第2回理事会(13:00~15:15)

(1) 1996~1997年度任期理事による最後の理事会で、出席者14名、書面表決書及び委任状提出者10名にて会議は成立しました。なお、1998~1999年度任期理事予定者も会議開始時約20名、代議員の方も同じく20名程度傍聴し、盛会になりました。

(2) 議題に入る前に会長から、概要つぎの挨拶がありました。

新旧両理事ご多忙の中多数出席いただき感謝する。

関係各位の努力によりNORC財政再建問題は、解決に向かっていて、今後は会員、登録艇の増加等事業の拡大に向け一層の努力が必要である。旧理事の方々にはこの2年間のNORC危機解決への功に感謝するとともに、新理事の方は新生NORCへ全力を尽くしていただきたい。

昨夏懸案の旧関東支部からの多額の借入金問題は、旧関東支部会員の好意により、債務免除になりこの場を借りてお礼を述べたい。

くたか裁判は和解とは言うものの実質的には勝訴と考えているが、事故の責任は船主、艇長にあり、レース主催者の責任とは、スタートラインの設定、スタートの確認、レース中の艇への必要な情報の提供、フィニッシュラインの記録等であると考えている。

NORCとJYAの統合問題は、関係者による精力的な会議により、どのような形で統合すればよいかに焦点が絞られて来た。統合にあたっては、我々の活動と権限が、新しい団体が確保されることが必要である。本日は本理事会にJYA員道理事長にオブザーバーとして出席願ったが、次会JYA内部会議に当方理事を出席させてもらうことにしている。

私が会長に就任してからは、当面の財政再建問題に追われ、我々にとっても最も大切な事業の発展へ、いささか遅れをとったことを反省している。レースを楽しむ人、クルージングを楽しむ人へ、どのような支援が出来るかを考えなければならぬ。

先般新理事、支部長の方々から、NORCが今後

具体的に取り組むべき新年度の施策を提出してもらったが、これを早急に整理して、具体的な事業の推進に役立てるようにしたい。

CRも今後は全国的な統一が必要となろう。このような施策の策定には、今迄は技術委員会を中心にNORCのノウハウを持つ方々のボランティア活動により行ってきたが、これも限界にきており、今後はアウトソーシングによることとしたいと考えている。

本日の会議にあたっては、NORCは転換期にあり、このため新しい事業を早急に展開する必要があることを念頭において会議を進めてもらいたい。(3) 小田理事から、緊急動議として、1998年度第1回代議員会の議題4 会報購読料について及び議題5 基金の設置については、十分な討議が必要であり、今後の検討の時間的余裕もあるので、この理事会において代議員会に提出する議案を削除することの提案があり、討議の結果削除に審議決定しました。

〈審議決定〉

(4) 議題1 1997年度事業報告案及び収支決算報告書案
加藤常務理事は、1997年度のレース事業等及び各委員会の活動状況について、資料に基づき、大要報告をしました。

鈴木財務委員長は、収支決算について、資料に基づき、概要次の報告をしました。

「収入の部において会費収入は予備を僅かに上回り、ほぼ予算通りの結果となった。計測料収入については昨年値上げをしたため大幅に増収となった。

また寄付金収入の3,140万円は関東支部よりの借入金を返済免除してもらったが、これを寄付金収入として計上した。

支出の部において、管理費は予算内に収まった。

また経務委員会の支出の中には、裁判費支出も含まれており実際の支出は予算以下となっている。回収不能金償却は、退会した会員の臨時会費を未収金としていたが、これらを償却処理したものである。借入金返済の内には関東支部からの借入金返済、3,140万円が含まれている。

94年度の繰越金の差異については、会計士の石川先生に調査を依頼していたが結果が出た。代議員会において石川先生に詳細を直接説明してもらった事になっているが、結果を簡単に説明すると、差異は87年度から89年度に発生し、89年度に過小表示された。この数字が93年度末まで繰り越され、94年度の期首に訂正されたものである。」

鈴木財務委員長の報告終了後、平野監事から1998年2月2日NORC本部において監査を実施したが、合法かつ適正である旨の報告がありました。

〈質疑等〉

1998~1999年度監事予定者の清田氏から、石川公認会計士の報告により現時点では問題なしとなっているものの、繰越金のミスが生じたときの責任体制を明確にしておく必要がある旨の表明があり、これは議事録にて明らかにしておくことになりました。

〈審議決定〉

(5) 議題2 1998年度事業計画案及び収支予算案

加藤常務理事は、1998年度の事業計画について、

資料に基づき、大要説明をしました。鈴木財務委員長は、収支予算について、資料に基づき、概要次の説明をしました。

「ほぼ暫定予算の通りであるが、97年度の収支計算書の中の97年度の予算と、98年度の予算案の中の97年度予算の数字が違っているが、これは98年度では臨時会費が除かれている為である。裁判も決着し今年度で臨時会費も廃止となるので来年度は分かり易くなる。」

〈質疑等〉

小田理事から、支出の部で返済及び予備費は別項目にすることが適当であること、公益法人では総予算の5%程度の予備費が必要ではないかとの指摘がありました。

この他、1998年度事業計画案は、旧理事の任期中に作成されたものであり、会長挨拶にあったとおり、先般新理事から提出された新年度施策アンケートを今後検討し、理事会にて修正を加え実施することが了解されました。

〈審議決定〉

(6) 新入会員の承認及び会員、登録艇の現状報告

加藤常務理事は、1997年10月1日から12月31日の間福嶺紀秀氏以下43名が、特別会員・正会員への入会申込があった旨説明しました。また、会員及び登録艇の現状、会友艇の現状について、資料に基づき、報告しました。

〈審議決定〉

(7) 議題4 1997年度会費滞納者(除名予定者)について
加藤常務理事は、資料により会費滞納による除名予定者のリストについて説明し、代議員会にて除名手続を行いたい旨説明しました。

〈審議決定〉

(8) 議題5 会報購読料について

議題6 基金の設置について

理事会冒頭の緊急動議により、1998年度第1回代議員会の議題が削除されたことから、今回の理事会においては両議題は議題としての提示のみ確認して、後日改めて理事会、代議員会に再提案することになりました。(21日後刻、総会が流会となったため、急遽理事等懇談会を開催することになり、その席上提案内容の説明と質疑を行いました。)

〈審議なし〉

(9) 議題7 日本外洋帆走協会組織及び運営規程の一部改正

加藤常務理事は、関東支部の1997年12月31日解散により、本年1月下旬東京湾支部、湘南支部、三浦支部、三崎支部が相次いで設立総会を開催し、それぞれ1月1日に遡り支部が設立された旨を報告しました。

これに伴い、日本外洋帆走協会組織及び運営規程第8条(支部の設置)について支部設置追加の改正をしたい旨説明しました。

今回の改正によりNORCの支部は16支部になりました。

〈審議決定〉

(10) 議題8 人事案件

加藤常務理事は、資料に基づき新支部長9名、新顧問会議長、新顧問3名、ナショナルジャッジ更新・新規計22名の就任について説明をしました。

また、新理事予定者30名、新監事予定者2名、名

ナイトセーリングの必需品!

夜間の安全航行を守る抜群の明瞭度、解析度そして増幅度。



米IT社が開発・製造し、これまで軍需用に使用されていた「ナイトマリーナ」が日本でも発売。「ナイトマリーナ」は星明りでは300m、満月では620m先まで景色が確認できます。F/1.4光学系の視野角度40°で、ほとんど肉眼に近い視野が得られます。又高い防水・浮水性を要し、軽量でコンパクトな設計で片手の操作にも簡単に出来ます。

●NORC会員のみなきまには特別価格を設定しております。

ITT
NIGHT VISION

光増幅型暗視装置
ナイトビジョンビューアー

ナイトマリーナ

■正規代理店

有限会社 ジュコー商会

横浜市中央区太田町6-73 ハマビルディング302
TEL.045(212)5058/FAX.045(212)5139

譽会員予定者7名について代議員会にて選任(議決)の手続を行いたい旨説明をしました。

(審議決定)

(11) 議題9 支部及び専門委員会報告

1) JYA委員会

尾島専務理事は、NORCとJYAとの統合については、昨年4月から委員会12回、分科会6回実施して、現在は新たな統合財団法人の「寄付行為」の内容について、特に組織人的構成についての検討を行っている。4月末までに一応の成案を得るようになりたい。統合出来るかどうか瀬戸際にあるとの説明がありました。統合問題については、JYAとの交渉がいま一歩進んだ時点で、Offshore誌上に詳しく説明する旨述べました。

2) ニッポンチャレンジの後援

戸田会長から、「アメリカズカップの後援は前々回はNORC、前回はJYAが行った。本年度はニッポンチャレンジでは60フィート艇により日本一周全国キャンペーンを実施する計画があり、NORCもバックアップをしたいと考えている。具体的にスケジュールが決まったときは各支部にお知らせするのでよろしく願いたい。」との発表がありました。

3) '98ジャパンカップオフショアシリーズ

都築理事(東海支部)から、資料により、本年度はオフショアシリーズを東海支部主催で三重県五ヶ瀬湾で10月～11月に実施する旨の説明がありました。

本件については小田理事から、ロングオフショアレース終了艇の夜間入湾対策に配慮するよう要望が出されました。

4) 計測委員会報告

林理事から、前回承認された日本外洋帆走協会ORCセイルメジャー制度に関する規定により22名のセイルメジャーの資格認定を行った旨の報告がありました。

〔説明〕

(12) 議題10 その他(特別会員の廃止)

加藤常務理事は、資料に基づき、外洋ヨット安全対策特別委員会、訴訟対策特別委員会、再建特別委員会を当面の任務終了により、廃止する旨説明しました。

〈審議決定〉

2) 1998年度第1回代議員会(15:30～17:15)

(1) 1997年度の事業報告及び収支決算、1998年度の事業計画及び収支予算、役員の選任等について審議決定する重要な会議で、出席者28名、書面表決書及び委任状提出者53名で会議は成立しました。なお、1996～1998年度任期理事及び1998～1999年度理事予定者の大半が傍聴しました。

(2) 議題に入る前に会長から挨拶がありました。挨拶内容は1998年度第2回理事会における会長挨拶とほぼ同一内容なので省略します。

(3) 加藤常務理事は、議題4 会報購読料について及び議題5 基金の設置については、本日の1998年度第2回理事会で、1998年度第1回代議員会に提出する議案から削除する緊急動議が成立して、議題4及び議題5は削除された旨説明しました。

(4) 議題1 1997年度事業報告及び収支決算報告

加藤常務理事は、1997年度事業報告を、鈴木財務委員長は1997年度収支決算報告を、1998年度第2回理事会と同様に説明しました。

また、1993年度と1994年度の間に発生した次期繰越収支差額問題について、NORCが調査を依頼した石川光男公認会計士から次の報告がありました。

① 詳細については、私が作成した報告書をお読みいただきたい。1993年度と1994年度の間に突然繰越収支差額が発生し、以降はそのまま推移しているが、過去に問題があると思い、1986年度から1996年度までのNORC本部及び関東支部に係わる部分について調査した。

② 次期繰越収支差額は、1987年度から1989年度の間に発生し、1989年度末には累計で3,664,479円過少に表示された。この差額はそのまま1993年度末まで繰り越され、1994年度初頭に訂正され、現在は正しい数値が表示されている。

③ 10年前に発生した繰越収支差額は、経理取扱ミスにより発生したもので、どのような理由によるか不明であるが、1994年度初頭に修正された。

つぎに、平野監事から、1998年2月2日NORC本部において監査を実施したが、合法かつ適正である旨の報告がありました。

〈審議決定〉

(5) 議題2 1998年度事業計画及び収支予算

加藤常務理事は、1998年度事業計画を、鈴木財務委員長は、1998年度収支予算を、1998年度第2回理事会と同様に説明しました。

(質疑応答)

都築代議員(東海支部)から、東海支部は登録艇より会友艇の方が多く、これらの会友艇は保険のために加入しているものもある。NORCは会友艇制度廃止により、登録艇以外のための新たな保険を作る計画の有無について質問がありました。これに対し尾島専務は、そのような考えはないこと、保険についてはこれから支払金額を下げる等により底辺の拡大を図りたい。将来予想される自動車と同様な強制賠償保険先取りするような動きをしたい旨述べました。

坂谷代議員(東海支部)から、NORCの予算書と決算書では科目項目が異なる他順番も違っている。今後の改善の検討を希望する旨の表明があり、尾島専務理事は、事務合理化のため本年度会計ソフト入れ替える計画があり、今後は見やすくなるとの回答をしました。

〈審議決定〉

(6) 議題3 1997年度会費滞納者(除名予定者)について 加藤常務理事は、資料に記載された者を除名することとしたい旨説明しました。

尾島専務理事は、除名者については従来どおり猶予期間をおいた後手続をするとの説明をしました。

戸田会長は、NORCの定款及び慣習によりこのような除名手続を長年間行ってきたが、実態上会費滞納の理由で除名は穏当でない。自然退会的な扱い等について今後検討したいと述べました。

〈審議決定〉

(7) 議題6 人事案件

加藤常務理事は、資料に基づき新理事予定者30名、新監事予定者2名、名誉会員予定者7名について説明しました。

さらに、1998年度第2回理事会で、新支部長9名、新顧問会議長、新顧問3名、ナショナルジャッジ更新・新規計22名の同意等があった旨報告しました。

〈審議決定〉

戸田会長は、改めて旧理事の方々に、2年間の活動について労うとともに、今後も執行部への協力をお願いされました。

また新理事に対しては、NORCの事業に対して前向きに取り組むよう要請しました。

(8) 議題7 その他

加藤常務理事は、本日の1998年度第1回理事会において、新入会員福嶺紀秀氏以下43名が理事会で承認されたこと、関東支部の解散により、東京湾支部、三崎支部、三浦支部、湘南支部の設立が同意され、NORC組織及び運営規程の改正されたことを報告しました。

〔報告〕

3) 1998年度第1回総会流会報告(17:15～17:20)

加藤常務理事は、現時刻は17:15では1998年度第1回総会開始時刻であるが、現在の総会への出席状況は会員出席者17名、理事会及び代議員会での現在の出席者61名、委任状提出者778名、有効出席者合計856名で定足数953名に対して97名不足する

旨報告しました。

戸田会長は、1998年度第1回総会は流会とし、現在の予定ではNORCとJYAの統合問題を勘案して1998年度第2回総会(臨時総会)を5月末ごろ開催したい旨発表しました。

4) 1998年度第3回理事会(17:30～17:40)

(1) 1998年度第1回代議員会において、新理事30名及び新監事2名が選任されたので、新理事による理事会を開催しました。

新理事出席者は25名に達し、委任状提出者4名で会議は成立しました。

(2) 議題1 主要役員の選任

戸田理事がまず会長に互選されました。

戸田会長の司会により、副会長に古川理事と三井理事を、専務理事に尾島理事を互選しました。会長から加藤理事と高田理事が常務理事に指名されました。さらに、財務委員長に鈴木理事の同意を得ました。戸田会長は残りの専門委員会担当理事、委員長、委員は次回理事会までの間に人選して改めて同意を願う旨の説明をしました。

〈審議決定〉

(3) 議題2 その他

その他議題は無く1998年度第3回理事会を終了しました。

5) 1998年度第3回理事会終了後の理事等懇談会(17:40～18:40)

(1) 1998年度第3回理事会終了後、戸田会長から折角の機会なので、新理事、旧理事、代議員、その他会員で時間に余裕のある方は残っていただき、懇談会をしたい旨の発言があり、戸田会長の司会で懇談会を開始しました。出席者は約60名でした。

(2) 鈴木財務委員長は、1998年度第2回理事会議題5 会報購読料について及び議題6 基金の設置について、資料に基づき、趣旨及び具体的な方策について説明しました。

小田理事は、会報購読料にすると会費のみ入金する者が出る恐れがあること、基金を設けるには先ずビジョンを決めることが先決で、現行の各支部基金との整合性に留意する必要があるとの意見が出されました。また、基本的には会費は出来るだけ値上げせず、レース出場者全員を会員にするなどして、会員の拡大を図る必要があると述べました。

三井理事からも、会員メリットをはっきり打ち出し、会費を上げず会員を増加させる具体策を進めることが必要である旨述べました。

鈴木財務委員長からは、NORCの短期借入金金全部返済したとき、繰越金に余裕がないときは、資金ショートへの恐れがある旨の説明がありました。

(3) 尾島専務はOffshoreについて、昔は立派な雑誌だったが、現時点ではタブロイド版でなくなったが、商業誌と異なる内容に持っていきたいので、各位から意見をいただきたい旨述べました。

これに対し、数名の理事から、郵送費が大半を占めるならば、支部会報と一緒に郵送することや、第3種郵便の復活を検討すること等について提案がありました。

(4) JYAとの統合について、戸田会長は、JYAとの統合検討はかなりのところまで来ている。もし統合出来ないときは、別の道を進むことも考えておく必要がある旨述べました。NORCのフリートは実態面からみて中途半端で、今後はヨットクラブを地域の中核組織にすることを検討したいと述べました。

(5) 最後に新理事に残っていただき、お互いに自己紹介をして結束を固めました。別れる前に次回理事会を3月10日(火)NORC本部で、さらに4月11日(土)東海支部又はNORC本部で行うことを確認して今回の会議をすべて終了しました。

1998年度第1回総会 (通常総会)流会について

常務理事 加藤正義

旧関東支部の債権放棄により大口債務が解消し、1997年末くたか>裁判は、300万円の和解金(裁判直後の記者会見にNORCは見舞金と理解していると発表した)で解決し、財政的に明るさが出て来た。

本年より、財政問題解決のため停滞していた事業の活性化を図り、会員の方々が心行くまでOffshoreを楽しめるよう環境整備と、平行して進める会員数と艇登録の拡大に取り組む課題もある。また今回の代議員会で審議決定した除名会員数は、約900名であった。Offshoreで常時報告しているNORCとJYA間で行っている、日本ヨット界

統合準備委員会で統合の意思決定に必要な条件も整い始めている。これらは、代議員会・理事会で慎重に審議された。

1998年2月21日17時15分、1998年度第1回代議員会終了後、予定された1998年度第1回総会は、総会の会員出席者数17名、代議員会及び理事会からの出席可能者数61名、委任状提出者数778名で有効出席者数856名、総会定足数に対し97名不足であり、会長は総会の不成立を発表した。理事会・代議員会が成立したので事業遂行は可能であるが、本年度より会費は特別会員・正会員6,000円の同一額でNORCの運営をして行くこととなっている。今回の理事会、代議員会、総会の会員1人当たりコストは約400円であり、総会開催に向け約200万円の貴重な予算を消費した。さらに臨時総会を開催しなければならない。

先に述べた、NORCとJYAの統合については問もなく報告書が出来る予定である。本年5月末頃に理事会、代議員会、総会を開催し、統合を可とするか・不可とするか。可の場合、統合作業とスケジュールについて会員の意志決定をいただく必要がある。通例ならば通常総会が流会すれば、すみやかに臨時総会を開催しなければならないが、統合という大きな議題が目前に迫りコストを考えると、総会・代議員会・理事会開催は、5月を予定している。

今回の臨時総会は、NORCにとって大切な総会になるので、会員の方々は可能な限りご出席いただく。欠席の場合は意志表示の書面は必ず送り返し、臨時総会の成立を期すよう是非お願いします。

1998年度第4回理事会概要

常務理事 加藤正義

1998年度第4回理事会は、3月10日(火)NORC本部会議室で開催しました。理事17名、監事2名、オブザーバー5名計24名で、狭い会議室は満席になりました。戸田会長が国会政務で遅れるとの連絡で、三井副会長が議長となり議事を進めました。

NORC JYA統合問題

2月21日理事会、代議員会では、議題や討議内容が多かったため、本件について改めて執行部から、現況を説明しました。スケジュール的にはJYA側の説明が順調に進めば、この5月24日JYAは評議員会で、統合に進むかどうかの意思決定が行なわれる予定です。NORCも同じ時期に意思決定をおこなうこととし、2月21日開催の総会が流会になったことから、代議員会、総会を開催する計画であることを理事会で説明しました。

これに対し、出席理事から、本件の概要はOFFSHORE等で承知しているものの、現地の会員には詳しい説明がないので、執行部メンバーが主要支部に赴き、説明会を行ってほしい旨の提案があり、3月14日内海支部を皮切りに、順次説明会を実施することになりました。

役員の変更

戸田会長が遅れて到着し、議長となり、執行部から当面の業務施策の進め方の説明を行い、そのあと会長が、各専門委員会を担当する理事を指名、理事会の同意を得ました。この担務理事名は、OFFSHORE本号理事名簿一覧表に記載してあります。なお、その他の各専門委員会の委員は担務理事が執行部と協議して早急に名簿を作成し、次回理事会にて同意を得ることになりました。

1998-1999年度 理事・監事名簿

役職名	氏名	役職名	氏名
会長	戸田邦司	理事・法制・泊地対策	渡辺康夫
副会長	古川保夫	理事	松永一生
副会長	三井祥功	理事	白井義博
専務理事 政策・総務	尾島裕太郎	理事	川端治夫
常務理事	加藤正義	理事	竹内聡一
常務理事	高田尚之	理事	渡辺行彦
理事・航海	池田栄宏	理事	坂谷定生
理事・国際	今北文夫	理事	小田泰義
理事・通信	大谷正彦	理事	稲継一洋
理事・財務	鈴木保夫	理事	馬場益弘
理事	周東英卿	理事	岩田行史
理事・クルージング 安全・海事思想	野口隆司	理事	金井寿雄
理事・ルール	榛葉克也	理事	山下文徳
理事・会報	服部一良	理事	松尾貴比古
理事・保険	平賀 威	監事	市原恭夫
理事・計画・技術	山本高靖	監事	清田 博

支部長名簿

支 部	氏 名	新・再
北海道	田中良治	
津軽海峡	米山義勝	
いわき	葉谷俊哉	新任
大 洗	川崎 貢	
東京湾	内藤恒夫	新任
三 崎	古川保夫	新任
三 浦	中村 寛	新任
湘 南	稲葉文則	新任
駿 河 湾	松永一生	
東 海	川端治夫	新任
近畿北陸	三井祥功	
内 海	小田泰義	新任
西 内 海	岩田行史	
玄 海	松尾貴比古	新任
南九州	刺岩政次	新任
沖 縄	東江正喜	新任

顧問名簿

顧問会議長	野本謙作	
顧 問	飯島元治	名誉会員
"	塩路一郎	
"	名和幸夫	名誉会員
"	平松栄一	名誉会員
"	平野喜美夫	新 任
"	福永 昭	
"	横山 晃	
"	渡辺修治	名誉会員
"	小林義彦	新 任
"	秋山福夫	新 任
"	大原 敦	

名誉会員名簿

氏 名	所 属
飯島元治	三浦支部
名和幸夫	"
富永 弘	"
平松栄一	"
渡辺修治	"
杉山正義	東海支部
池田時也	南九州支部

NORC安全規則(1993)の 一部改正について

標記について、3月10日開催された1998年度第4回理事会において、急遽「NORC安全規則」第4条2項の特別規定検査の有効期間を、IMSの有効期間に合わせる事が審議決定し、施行を本年1月1日からとすることが、別紙のとおり決まったのでお知らせします。なお、本規則は本年度中に全面改正を予定しているため申し添えます。

また、特別規定検査料は、すでに1997年度第6回理事会及び1997年度第2回代議員会で、本部納入分額を従前の1,000円から5,000円(チェックリスト料を含む)とし、従前の検査料6,000円を10,000円とすることについて審議決定していたにもかかわらず、事務的手違いから、改正が行われておらず、現場で混乱もあったことから、併せて改正したのでこれらについて検査関係者に周知して実施願います。(10,000円の内訳は、本部納入分5,000円、支部納入分3,000円、検査員への検査実施料2,000円です)

NORC安全規則(1993)

改正 平成10年3月10日

第4条 レース出場艇

2.特別規定検査の有効期間は、合格の日からその年の12月31日までの間とする。

第5条 特別規定検査

2.特別規定検査は通年実施する。

第15条 特別規定検査料

1 特別規定検査を受けようとするものは、特別規定検査申込書に所要事項を記入の上検査料10,000円(チェックリスト料をふくむ)を添えて申し込むものとする。

附則

この規則は平成10年1月1日からの施行とする。

(社)日本外洋帆走協会と(財)日本ヨット協会との統合準備委員会の開催状況

NORC側委員 古川保夫 尾島裕太郎 加藤正義 高田尚之 鈴木保夫 兄玉萬平
 JYA側委員 米沢 一 貝道和昭 穂積八洲雄 有馬敬三 岩田直幸 栗田栄一郎

(1)全体会議実施状況

番 号	開催年月日	討 議 概 要
準 備 第1回	平成 9年 4月 8日 1900～2000	統合に関する議定書(案)、付帯事項(案)について逐条審議、統合の必要性、理念検討
準 備 第2回	平成 9年 4月 23日 1810～1940	統合に関する覚書(案)、委員会ルール(案)について逐条審議 合意
第1回	平成 9年 5月 20日 1800～2000	統合に関する覚書、日本ヨット界統合準備委員会協議運営方針を押印、今後の委員会の検討の進め方について検討、セーリングフォアオールの理念検討
第2回	平成 9年 6月 10日 1800～2000	NORC、JYA双方統合に関する過去の参考資料交換、資料内容について意見交換、NORC、JYAそれぞれ事業実施状況説明
第3回	平成 9年 7月 2日 1800～2000	NORC、JYAそれぞれ会員制度、艇登録制度の実態説明、NORCは関東支部からの大口借入金(3,140万円)が債務免除になった旨説明
第4回	平成 9年 8月 20日 1800～2030	NORC、JYAそれぞれ予算、決算の内容、運用実態説明
第5回	平成 9年 9月 18日 1800～2000	ヨット界統合について広報のすすめ方検討 統合準備委員会の作業期限の目処は平成10年5月 J Y A 開催の評議員会の時期とする
第6回	平成 9年 11月 18日 1840～2010	JYAからISAF総会(11月3日～11月7日)出席報告 (ISAFとORCの1997年の合併は無し)
第7回	平成 9年 12月 3日 1830～2100	NORCからORC総会(11月8日)出席説明、JYA提示の新組織「寄付行為」の目的、事業内容について検討
第8回	平成 9年 12月 27日 1300～1600	日本セーリング連盟(案、JSAF)の目的、事業内容について検討、NORCはくたか>裁判和解について説明
第9回	平成10年 1月 26日 1830～2030	統合後の組織構成の考え方の討議及びISAFのRRS著作権免許契約締結についての説明質疑
第10回	平成10年 2月 12日 1830～2015	統合後の組織構成について具体的な内容について検討
第11回	平成10年 3月 5日 1830～	統合後の組織構成に関する検討(予定)

(2)分科会(委員双方 3人程度、議事録無し)実施状況

番 号	開催年月日	討 議 概 要
1	平成 9年 7月 31日	会費、艇登録等経理問題
2	平成 9年 8月 6日	"
3	平成 9年 9月 4日	"
4	平成 9年 12月 19日	日本セーリング連盟(案、J S A F)下案検討
5	平成10年 2月 5日	組織構成のあり方
6	平成10年 2月 23日	"

1998年度第1回顧問会について

顧問会を久々に開催しました。概要はつぎのとおりです。

- 日時 平成10年2月9日(月)11:40～14:00
- 場所 参議院麹町議員宿舎B1 第1会議室
- 出席者 顧問(順不同) 平松栄一 塩路一郎 福永昭 野本謙作
(関係者) 戸田邦司(会長) 尾島裕太郎(専務) 加藤正義(常務) 服部一良
- 議 題
(1)NORCの現況について
(2)NORCの今後のあり方について
- 議 事
戸田会長から、NORCではご出席の方々に顧問をお願いしておりながら、久しく顧問会を開催していない。NORCの財政再建も一応軌道に乗り、くたか>裁判も色々ご意見もあったが、和解により解決した。当面は昨年からの交渉再開したNORCとJYAの統合問題や、会員数の増加策や公益活動強化等によるNORCの進展策である。NORC発足当時から活動された顧問の方々

の貴重なご意見を参考にして事業を進めたい旨の挨拶があった。
 尾島専務及び服部会員から、くたか>裁判の和解に至る経過概要説明があった。とくに昨年末の裁判長からの職権和解あっせんは、その直前の野本顧問の証言に負うところが大きかったことを述べた。

NORCとJYAとの統合問題は、尾島専務から日本ヨット界統合準備委員会の昨年4月からの会議状況について説明し、現在は組織・人員構成等一番難しい問題について討議中である。これが解決すれば4月～5月ごろNORCとして統合についての可否の決定をしなければならない旨の説明をした。
 加藤常務からは本年から関東支部が4支部に発展分割したこと、1998～1999年度理事予定者は新任が18名で3期連続理事は数名しか残っていない状況にあること等を説明した。

NORCとJYAとの統合問題は、福永顧問からNORC設立当初の経緯から反対意見が表明され、一方、野本顧問からは、世界の大勢や今後のあり方から賛成表明があった。
 平松顧問から、顧問制度は昭和63年発足したが

平成2年(1990年)第4回以降開催されていない。顧問会の適時開催を希望するとの意見が述べられた。
 野本顧問から、理事会、代議員会ほど型式化することは必要ないが、顧問会を活用する方向ならば、おおむね年2回程度開催するものとし、そのうち1回は事業計画、予算立案以前にフリーな立場で意見表明が出来るような機会をつくってもらいたいとの意見が述べられた。
 福永顧問から、かねてから思っていることとして、我々外洋ヨットマンの免状は推進機関の構造的な内容は最小限にして、ヨットマンとして必要な外洋セーリングを主体にした免状の制度化を求めようように働きかけることが必要であるとの意見が述べられた。
 野本顧問から、福永顧問発言関連で、ソーラス条約では軍艦とヨットは基本的に適用外となっていることが、意外と認識されていないと述べられた。
 次回顧問会は、NORCとJYAの統合問題について、交渉状況を勘案して早期に顧問の方々からの意見を聴取することになった。
 (今春4月ごろ)

新理事紹介 (順不同)

執行部と会員諸兄をしっかりと結ぶために、理事各位に「ヨット歴」「NORC歴」「理事としての抱負」「その他、ご自身で必要と思われるメッセージ」を300字前後でまとめてください、とお願いしたご返事です。未着の方は次号に回します。

池田栄宏 理事 (三崎)

会員の皆様はじめまして、今回本部理事に選出されました池田栄宏(ヒデヒロ)です。理事になった理由としては、20年来NORCにお世話になり大変楽しく遊ばせてもらいました。こちらで先輩たちに恩返しの意味も含めて微力ながらお手伝いをさせていただき、次代人達にバトンタッチができればと思います。インショアレース、オフショアレース、クルージングとすべて経験していますが、オフショアレースが一番好きです。最近のオフショアレースの衰退を思いますと悲しいかぎりです。遊びの多様化、不況、等々あると思いますが外洋ヨットの原点はオフショアです。自分達の力で乗り越えた海のすばらしさを今一度思い出して下さい。また、ぜひ経験してみてください。きっと違った意味海が見えてくると思います。最後に会員の皆様の協力、理解なくしてNORCの発展は望めませんのでよろしくお願いします。

金井寿雄 理事 (西内海)

ヨット歴：28年 日本大学ヨット部 昭和50年卒
NORC歴：1980年 正会員、1993年より特別会員、現在に至る

現在のヨット：「MIMI」JPN 3280 FARR 44f
本年より西内海支部の理事が3名となりその責任を感じています。遠い広島ですが理事会には必ず1名が出席する様にしています。今迄、岩田支部長1人に負担を掛けていましたが、いくらかでもサポートできたら、と思っています。NORCも財政的、JYAとの統合の問題等、難題山積み状態ですが、自分達が愛するヨットとその仲間達の為、頑張るつもりです。レースを主体に活動するヨット、クルージングに楽しみを求めるヨット等、様々なヨットライフがあります。安全な運行、マナーの向上等、NORCの使命は重大です。よろしくお願いします。

坂谷定生 理事 (東海)

私が初めてヨットに乗ったのは、25年程前のことになります。その頃は年中週に1回はセーリングの練習をし、レースがあれば出かけていったことを思い出します。NORCの会員になったのは1980年で、この頃から東海支部のコミッティーとしてレース運営の手伝いをするようになりました。そうして次第に地元ということもあり鳥羽パールレースに拘わるようになり、5年前から実行委員長として参加される皆さんが楽しんで頂けるようなレース運営に努力しているところです。

この度は図らずも理事に選出されましたが、こういった立場は何せ初めての経験ですので、いろいろ勉強させて頂きながら重責を全うしたいと考えておりますので、宜しくお願いいたします。

岩田行史 理事 (西内海)

東京にてホテル勤務の後、競艇関係役員歴任
現在(社)広島県モーターボート競走会会長その他各種団体役員兼任

ヨット歴：1954年～ スナイプ、自作トリマラン、横山38等に親しむ1977年～ ヤマハ33、ヤマハ34ケッチ、ジャスー1100、オセアニア440、現在安芸10世号 ベネトー50

NORC歴：1968年NORC入会、79年NORC理事、80年西内海支部長として現在に至る。1989年ハワイ～広島間レース、HIROSIMA CUP 89 主管
仕事は海を糧とし、趣味は海を楽として私の人生の大部分は海に拘わって生きてまいりました。これからも生ある限り同じ道を歩むつもりです。会員各位のご意見が充分反映されるNORCになりますよう、微力ながら努力致します。

山本高靖 理事 (東京湾)

1979年入会、長期間無関心会員をつとめる。
1990年頃より所属横浜71-トの手伝いを始める。その後、CRメジャーとして、計測委員会CR部に係る。常任委員会、9412委員会、関東支部理事を経て、1997年末本部理事に立候補。グランプリレース、インターナショナルレガッタとあまり縁の無いところで、活動してきた。乗っている艇もCRボート(船齢15年!)。トップレベルでは無いところの、しかし、重要な部分(NORCの)は何か、これから、どうハンドリングすればいいのか、を考えつづけた。

川端治夫 理事(東海)

ヨットを趣味にしてから40年余り、また75年にNORCに入会して、たまたま会員番号年度1番をいただきました。なにか因縁でもあるようです。随分長い間、海とヨットを楽しませていただいたことと因縁とで、あまりお役にたたなかった理事を16年間も仰せつかり、今回もまたお引受けしなければならなくなりました。これからのNORCは、各支部が自主的に、地域色豊かに活動しなければならぬと思います。活動を拡大してゆくには支部間の関係も必要となるでしょう。ハイテクレーサーからブルーウォーター派まで、全国で、世界で、誰もが楽しめる活動の基盤が必要です。それには、諸問題を抱え再建に取り組む本部にて、理事の役目を果たさなければなりません。

白井義博 理事 (駿河湾)

1970年にメンバー5人で横山22の中古艇を購入以来28年間、沼津フリート及び駿河湾支部で活動、現在ヤマハの30SⅡ、ル・ソレイユⅢの共同オーナーの代表者

レース活動では、毎月1回開催される沼津フリートのレースには必ず参加、他パールレースにクルーとして時々参加等年間12レースほどに乗艇、

NORC歴：1977年入会、駿河湾支部役員、計測委員2年、安全委員4年、帆走委員8年、総務委員2年、沼津フリートキャプテン4年

理事としての抱負：NORCの活動で重要な事はフリート活動、支部活動の充実、この事が無くて会員増、クラブの盛り上がりは期待できない、本部一支部のパイプ役、としてがんばりたい。

渡辺行彦 理事(東海)

私は1946年生まれの52才です。ヨット歴は、自分の家の近くに海があり、中学・高校生の頃よく兄とディンギーに乗りに行き、その時ヨットに大変興味を持ちました。そのお陰で大学入学と同時に、ヨット部に入学して4年間スナイプ級に乗り、卒部と同時にクルーザー(ルナⅢ世)にクルーとして乗せて頂き、そこで、色々なクルーザーの基本を教えて頂き、そして、1978年に自分の艇(カレラ)を進水させ、無媒にも79年にトランスパークレースに出場。当時としては、海外レースの情報があまり無い時で、色々な事で大変苦労がありましたが、今では良い思い出となっています。その後もレースを主体としたヨット生活を現在も続けています。 NORC歴は、1970年に入会し、はや28年にもなります。新理事の抱負と致しましては、これからよりNORCの内容を理解し、会員がより楽しく遊べる会にして行きたいと思ひます。

三井祥功 理事 (近畿北陸)

ヨット歴：1957年高校ヨット部に始める
NORC歴：1960年代に関東支部へ入会(岡本興業に事務所があった頃)
この度図らずも副会長に任命されましたが、身に余る光栄で、責任の重大さに心引き締まる思いです。振り返りますと、理事中最古参になってしまい、我ながら年を感じさせられるようになりました。

抱負：財政の健全化と、会報「Offshore」の復活です。幸い今期の予算には両方とも反映されていますので期待大です。一方、近畿北陸支部長としましては、支部の活性化です。今期から支部にも活性化委員会が編成されたことであり、この若くてやる気十分のメンバーに大いに期待しています。

鈴木保夫 理事 (三崎)

25年前三浦海岸でディンギーを始め、油壺にて21ftのクルーザー(絹雲)の共同オーナーとなりました。74年にNORCの会員となり、同じ油壺のVOLANSⅡのクルーとして三宅、八丈、洲本、沖縄レース等に参加、同艇による小笠原クルージングにも参加しました。海外はチャーターヨットにてカリブ海、カナリア諸島、地中海をクルージング、東京～グアムレースはVOLANSⅡにて参加しました。

94年関東支部の財務担当、96年より本部の理事となり財務を担当してきました。この2年間、NORCは財政的に非常に厳しい状況にあり、会員の皆様に救済基金、寄付金の協力をお願いし、非常に心苦しい思いをしました。しかし、皆様のご協力の結果、財務状況も好転し、また、タカ号の裁判も決着し、ようやく先が見えてきました。今後も完全に財政が再建するまで気を抜かずいきたいと思ひます。

服部一良 理事(三崎)

ヨット歴：逗子海岸の貸しヨットから始まる。20代の前半、釣槽でシーラスを友人と共有。クルーザーも共有で現在3隻目。レースは、沖縄、小笠原、ナホトカ室蘭などのロングオフショアが主。海外は、ハワイのシリーズ、シドニーハート、JGYRなど。昨年は自艇でクラブレース年間総合優勝。

NORC歴：1964年入会。帆走委員会、オフショ

ア編集委員会、JGYR訴訟対策委員会などのスタッフを務める。

抱負：次代のセーラーを悩ませないインフラの一本化。前代未聞の裁判劇から学んだ顛末を、会員の財産としてフィードバックする。

メッセージ：お世話になった数々のオーナーはもちろん一緒に遊んだクルーのために、何ができるか、老いを逆手に真剣に考え行動します。

高田尚之 理事 (三崎)

NORCにとって、一番変動の大きい時期に大役をお引き受けすることとなり、一段の勉強に励みたいと考えています。

「会員のため」をベースに、歴史的審判に耐えられるよう、NORCの舵取りに慎重を期したいと思ひます。積極的にご意見を伺う体制を整えたい所存です。

ここ数年、関東で会員のあまりの「勝手さ」を身にしみて感じ、NORCの将来を危ぶんでいます。一部の人々に奉仕を押しつけるのではなく、会員自らが「それぞれの分」を為さねばNORCは潰れてしまいます。

会員のサイドでも、「無関心」で自分の首をしめないよう、是非ご協力ください。例えば、総会流会なんて、とんでもないことです。

加藤正義 理事 (三崎)

縁あって、昨年4月からNORC本部に勤務しています。海上保安庁出身で今から40年前、新船早々に南極調査船「宗谷」で南極に2回行ってきました。船乗りとしてケーブホーンは通過できなかったものの、嵐の海を越えて行った南極はよき思い出です。NORCの一番大変な時期は終わり、新しい門出に今立っている感です。このたびの1998年度第3回理事会に、全国から25名の新理事が出席されましたが、これは開闢以来のことではないでしょうか。事務局は、私と寺沢事務局長代行にアルバイトの女性2名の4名で、目の廻る忙しさです。老骨に鞭打ってがんばっております。よろしくお願ひします。

渡辺康夫 理事 (湘南)

新任理事の渡辺康夫です。母親の腹の中からヨットに乗っていたそうですから、ヨット歴は48年になります。1966年にNORCに加入し、「どんがめ」「天城」「衣笠」で、主としてロングオフショアレースとローカルレースに参加してきました。NORC最後の国内ロングオフショアレースとなった返還20周年記念沖縄レースでは、ゲームレースの後で誰も引受手がいなかったレース委員長を引き受けたためにレースに参加できず、ロングレース参加の最後のチャンスを逃しました。それ以降、NORC・ロングレースの迷走が始まったよう、是非、NORCとロングレースを復活させたいと思っております。長い間、NORCで大変楽しく遊ばせてもらいました。これから、非力ですがお手伝いさせていただきます。

竹内聡一 理事(東海)

1945年生まれ A型 双子座 QUERIDA

ヨット歴：30数年 NORC歴：30年 小艇にて、ローカルレース・クルージング専門
NORCは空気みたいな存在で、普段気づかないけれど、クラブレースもルールやレーティング使ってるし、メディアにのっかるようなヨットレースがヨットの市民権を得るのに一役買って

くれてるし、安全基準なんか国際的なノウハウの恩恵にあずかっているって訳ですね。自分たちで出来る、安全のレベルアップや地域に対しての海事思想普及活動は、日頃からやっていますんで、組織ぐるみじゃないと出来ない—安全向上、規制緩和、海事思想などNORCにやってほしい。すでに行われているでしょうからもっとPRする。

会費がお役に立っていることが分かればうれいすから。NORCメリット論より、NORCボランティア論はどうでしょうか。安全で楽しいヨットライフのサポートたのむぜ!…じゃなくて、これからは「努力します。」ですか。ダイジョウブカイナ?このひと。

市原恭夫 監事(三崎)

92年にNORCの特別会員になり、それ以前は会友艇として、主にクルージングを楽しんでいました。97年2月に代議員に選任され、98年2月に監事に選任されたことにより、代議員を辞任しました。ヨットは社会人になってから乗り始め、ディンギーからクルーザーに乗り換えて来ました。NORCの諸先輩のヨット歴に比べますと、まだ入り口に立ったところだと思います。趣味で始めたヨットで、多くの方と知り合い、ヨットの楽しみ、特にヨットレースのおもしろさ、恐さ、忍耐等を教えてもらい、大変有意義な時間を過ごして来たと思います。

この度は、経験豊かな諸先輩のいらっしゃる中で、非才も省みず監事という役職をお引き受ける所以のものはもちろん、NORCの向上に資したいとの気持ちにほかなりません。会員による会員の為の魅力あるNORCへ皆様が努力して行く過程の一助になれば幸と思っています。今後とも宜しくお願ひ致します。

清田博 監事 (三崎)

監事となり二つの思いがある。「永い期間NORCの会員であったな!」一方「レースで楽しませてもらった御礼も含めて失墜してしまった信頼の構築に微力を尽そう。」監事として、常識ある社会人の視点で業務を遂行し、責任ある行動を取って行きたい。再び、活気あるNORCになるよう努力し、後輩へ引き継ぎ出来ればと念じている。新理事の諸兄はこの危機的な打開の為、自発的に「乃公出でずんば」の意気込みで選挙の洗礼も受け渦中に飛び込まれたことに一会員として感謝すると共に、私自身、側面から協力したい。1985~1987に関東支部副支部長、理事を務めたが、力を発揮出来ず一期でやめた苦い経験がある。以後は代議員として体質改善の為に苦言を提するのに専念してきた。昔から、地元の油壺湾の泊地艇の事務局として汗を流してきた。唯一、ボランティア活動をした「三浦ちびっこヨットレース」は良い思い出であり、ささやかな誇りだ。

橋葉克也 理事 (湘南)

私がNORCと出会ったのは、23年前当時クルーザーの草分け的存在であったフルールブルーの末端のクルーとして準会員の登録時であります。ディンギーとの違いの手ほどきを受け、クルーザーの楽しみを教えられたのがオーナーの井上正春氏でした。それから、しばらくブランクがあった後ニッポンカップを通して石井正行に今度は本格的に、レーシングルールの手ほどきを受けジャッジの道を歩み初め今日に至って

ます。この2人の「マサ」との運命的な出会いがなかったら、NORCでの今の私は無かったと言えます。ジャッジするに当たり判らなくなった時は、「基本原則」に返りなさいと教えられています。常に初心を忘れず、自らのスキルアップ図ると同時に、NORC発展の為尽力をつくす所存であります。

尾島裕太郎理事(三崎)

ヨット歴：高校2年の頃、江ノ島でディンギーに初めて乗る。その後、1967年に初代くはやまる>を進水。現在のくはやまる>は5代目。当時の八丈島から始まり、小樽・ナホトカ、室蘭・ナホトカ、シドニー・ホバートなどのオフショアレースに参加。

NORC歴：1968年入会。最近では、第6回・第7回JGYRのレース委員長を務める。1996年、理事。1997年、専務理事。

抱負：ヨット文化の社会的認知ををめざし、NORCの環境整備を行う。

古川保夫 理事 (三崎)

ヨット歴：現在の所有艇くはやまる>は、くはやまる>の時代から数えて6隻目。過去、沖縄を始め、小笠原、クリッパーカップ、ナホトカ室蘭、トランスバックなどのレースに参加。

NORC歴：1968年年会員資格取得。1990年、理事。1996年、関東支部長。今期から副会長。抱負：NORC焦眉の課題は、関係各位の努力によって、いくつかが凌げました。残る課題のひとつは、冠する名に恥じない「外洋帆走」への回帰です。この5月に、その第一歩として八丈島ラリーを企画しています。ぜひご賛同ください。

山下文徳 理事 (西内海)

海と共生楽しいヨットライフを満喫しよう! この度、理事に推挙され、戸惑いと共に少しはお役に立てるだろうと考えている脳天気な山下でございます。

ヨットを始めて約20年波静かな瀬戸内海でポチャポチャとクルージングを楽しんでいた私が、人のおだてに乗って新生「呉フリースタイル」そして10年間レースの「お手伝い」やら「ぞうきんがけ」をせせとこなしご褒美に「副支部長」の肩書きを頂き更に本年より「本部理事」と云う地方の者の私にとっては、幕下力士が関取に出世したようなもの!と喜んで「状況音痴な奴」といった自己評価をしております。offshore担当者の方から「理事としての抱負」をと云われましても、前述のようにNORCが今直面している諸問題についても理解している訳ではございませんが強い挙げれば題記の「海と共生楽しいヨットライフが満喫できる組織作り」に楽しんで汗を流そうと思っております。42年鳥羽の商船学校を出て12年間日本郵船会社で外国航路に従事世界の海を駆け巡ったプロの船乗りからのヨット乗りには転職した「海が好き、船が好き」人間です。

第1回の済州レースでまたアランレースや鳥羽パールの回航で小さいヨットでの恐怖を味わいながらも更に海に惹かれて行く私ですのでクルージング派の方のお役に立てるはず。上手に私をお使い下さい。というところで私の挨拶とさせていただきます。

専門委員会報告

1998年全国計測&技術委員会 会議事録要旨

日時：1998年2月14日（土）13:00～21:00

場所：豊岡福祉会館

出席者：計測委員会：大橋且典、沢地繁、高橋太郎、山本高靖、野崎輝夫、山田裕治、伊藤静美、齊藤晴雄、中村隆彦、大野健作、春田隆三、大矢隆、豊田哲郎、栗林裕之、柏元孝博、飯塚功二、田中龍雄、平岡俊一郎、岡田真一、田村治久、増金道治、古谷光正、青野忠純、岡山寿、矢嶋滋

技術委員会：林賢之輔、今北文夫、東島和幸、角晴彦、増山豊、（大橋、沢地、高橋、中村、矢嶋は計測と重複）

オブザーバー：戸田邦司、大儀見薫、周東英卿、尾島裕太郎、高田尚之、

議事

1.会長あいさつ

戸田会長より、財政再建に重点を置いてきたが、多少めどがついてきたで、今後は資産、特に技術的な資産を維持／活用していくことが協会の方針となっていくであろうとの見通しとそのための協力要請の話があった。また、ヨット協会とは、ナショナルオーソリティは一つであるべきとの認識の一致を見ているので、その点でも協力を要請したいとの話があった。

2.人事報告

大橋計測委員長より、理事改選にあたり、戸田会長に計測と技術の担当理事になっていただく旨の要請をしており、また、山本委員が新しく理事になれるので、計測の担当理事になっていただく旨を要請をしており、来週（2月21日）の理事会で決定予定である旨の報告があった。

計測委員会名簿（配布資料）について、確認を行い、次の報告と訂正をすることになった。

セイルメジャラー部会の部会長が変わり野崎輝夫氏が就任、副部会長として山田裕治氏が就任し、本部計測委員会委員となった。

関東支部が4支部に分割され、各支部の計測委員長は次の4名が就任したので、名簿に追加する。東京湾支部：齊藤晴雄、三崎支部：鈴木利夫、三浦支部：河口秀夫、湘南支部：大河原雅之
常磐支部が、大洗支部といわき支部に分割されたのにもない、大洗支部の委員長に金子友好委員、委員に青野忠純委員、いわき支部の委員長に岡山寿委員がそれぞれ就任したので、訂正する。
近畿北陸支部の委員長が田中康一郎委員になったので訂正する。

技術委員会名簿（配布資料）について、確認を行い、林技術委員長より増山豊氏に対して正式な委員就任依頼をしなければならないこと、伊佐馬克委員に確認をしなければならない旨の報告があ

った。

高橋太郎委員より、今年のORC会議には出席できない可能性がある旨の話があり、検討した結果、今から派遣委員を決めるのではなく、英語のできる人を候補者として対応していくことで同意した。

3.計測委員会事業報告

大橋計測委員長より計測委員会の97年事業報告と98年事業計画（配布資料）に基づいて説明があった。
IMSの成績算出用艇データ（ENCファイル）料として、昨年は関東支部から20万円、東海支部と内海支部から各々10万円の計40万円は納入されたが、今年も同様で良いかとの大橋計測委員長の質問に対して、4つの支部に分割された関東の扱いについて検討した。20万円を4つの支部で均等に5万円づつというのでは、4つの支部間で艇数が違い、また、内海や東海支部との艇数とのバランスもあるので、認められないとの意見があり、4つの支部合計で20万円以上を、金額は支部間で話しあって検討してもらうことになった。

Eメールについて、大橋計測委員長より、積極的に活用し、委員会の報告や検討事項などをかなり広範囲に配布しているが問題はないかとの問いに対し、日頃委員会に出席できなくても委員会の流れが解るので、続けて欲しいとの意見が多く、特に困るという委員はいなかったで、継続することとなった。これを受けて、現在Eメールを行っていない委員も入って欲しい旨の要請が大橋計測委員長よりあった。

4.技術委員会事業報告

林技術委員長より、平成9年事業報告と10年事業計画（配布資料）に基づいて説明があった。

5.オフショア技術センターについて

林技術委員長より、協会として行わなければならない事で、ボランティアで実行できる範疇を越えてしまう事について、センターは協会から報酬を得て業務を引き受ける外部的組織であり、メンバー的には技術委員会メンバーと重複することが多い可能性があり、費用の出所としては日本財団の補助事業が考えられるとの説明があった。

尾島専務理事より、本来は会費の中で予算を組むべきものと思われるが、底辺の拡大ができるまでは、日本財団の補助事業として行う方向にあり、また、スポンサーを付けることにもトライするつもりである旨の話があった。

センターの内容について判然としないとの意見に対して、次のような具体例が考えられるとの説明があった。

各種ルールの翻訳作業

標準化協会（例：艇用用語委員会やISO）への委

員派遣と技術資料作成

6.標準化協会報告

日本船舶標準化協会の会議に出席の角委員より、配付資料（平成9年度マリンレジャー用 舟艇部会 船体一般専門分科会の議題）に基づき報告があった。

7.ダブルハンド1999について

林技術委員長より、ノーティスが完成したこと、その中でスペシャルレギュレーションは0を採用して削除項目を設けること、クラス分けの計算方法を変更したこと、の報告があった。

8.ジャパンカップ1997報告

インスペクション委員長を勤めた飯塚委員より、配布資料（ジャパンカップ97インスペクション委員会 報告書）に基づきインスペクションとシリーズ期間中の事項について説明があり、補足として、誰が最終的決定権をもつのかをはっきりさせおく必要があるとの話があった。例として、インスペクションについては、インスペクション委員長か、チーフメジャラーか、レース委員長か、ジュリーか、など。

9.ジャパンカップ1998計画

豊田委員より、東海支部が担当し、次の予定である旨の報告があり、インスペクションについての協力要請があった。

10.各支部の報告

東海支部 大矢委員長の報告年間9レースで出場の大半がCR、IMSは5隻位であった。CRは3年間で99隻発行。

内海支部 柏元委員長の報告IMSは多いときで30隻出場、CR保有艇は約150隻。

西内海 田村委員長の報告配布資料（1998CR全国連絡会議資料、1998全国計測委員会資料 西内海支部現況）に基づいて報告。

近畿北陸支部 栗林委員の報告琵琶湖でのフェスティバルやシリーズレースの他、若狭湾や敦賀でもレースがある。CRが基本で、所有艇は123隻。支部所属のIMS艇は、他の支部海域でレースに参加している。

常磐支部（大洗、いわき） 青野委員の報告40マイルのレースがあり12年目である。他に大洗と小名浜でポイントレースを行っている。CRは大洗で40隻、小名浜で20隻。銚子に来年4月にマリーナが完成予定である。

関東支部（東京湾、三崎、三浦、湘南） 大野委員の報告3年間で200隻のCR取得。レースの無線を国際VHFにしたためか、97年の新規取得は少なかった。

110.CRルール改正について

今年は3年ごとの更新の年にあたり、ルール改正について沢地委員より配布資料（1998年版NORCクルーザーレーティング案、NORC Cruiser Rating

専門委員会報告

98 変更部分案, NORC CR98 サンプル出力) に基づいて報告があった。補足として、艇の性能をレーティングに反映させるために計算式を全面的に変更し、IMSに近いものとなった旨の説明があった。

斉藤委員より、配布資料のCR (クルーザーレーティング) 質問表を作成中である旨の報告があった。

12. インターネットについて

沢地委員より、NORCホームページの説明があった。また、配布資料のNORC会員ページのIDが小文字のmemberである旨の訂正があった。

矢嶋委員より、計測委員会のページに、IMS計測関係 一般配布資料 リスト (配布資料) 中の各種案内が掲載されており、改正があった場合には逐次更新する予定であると報告があった。

13. ORC報告

年11月の会議に出席した高橋委員より、配布資料 (ORC報告 (NORC版)) に基づいて報告があった。

14. ルールブックの翻訳について

ルール変更部分の和作成はやっていくべきとの意見で同意し、届き次第、分担して行うことになった。また、担当者は前回と同じとする。

IMSルール: 大橋計測委員長, IMSレギュレーションズ: 高橋委員, IMSガイド: 沢地委員

ISAF Equipment Rules については、必要な人は限られており (主にセイルメジャー)

、またヨット協会との兼ね合いもあるので、とりあえず見合わせることで同意した。

15. IMS証書98年版について

矢嶋委員より、配布資料 (IMS98年プログラムテキスト) は、98年版と97年版のコピーで、タイアローワンスの変化が艇により異なることと、記号のMXSLとMXSMWがそれぞれMSLとMSMWに変更された旨の説明があった。

16. RMPについて

NORC版は新CRには対応しているが、ORCクラブレーティングには対応していない旨の報告が、沢地委員よりあった。また、ORCのRMSもORCクラブにはまだ対応していない旨の補足説明があった。

17. ORCセイルメジャー部会報告

野崎セイルメジャー部会長より、ORCセイルメジャー規定が制定され、今年になり4回の講習会を開催した旨の報告が、配布資料 (ORCセイルメジャー制度に関する規定, ORCセイルメジャー名簿1998) とともにあった。また、現在、講習を受けていない者は3名で、規定どおりに失効とするが、その扱い (アフターケア) をどの程度すべきかについて、判断が難しいとの話であった。また、計測方法や解釈の統一のために、セ

イルメジャメントマニュアルを作成し、講習会で使用している旨の報告があった。

18. 会議開催方法

CRの検討課題などが増大して、会議時間が不足する傾向があるため、全国会議開催方法について検討した。会議の内容からORC (IMS) 関係, CR関係, 全体会議と分けて開催することに多数の同意を得たが、開催日が別々では遠方の出席者の負担が多いので困るとの意見が多かった。また、同時開催は、いづれの会議にも出席しなければならない委員がいることから、無理であるとの結論に達した。以上を踏まえて、次回 (来々) は午前中にORC関係, 午後に全国会議 (CR関係含む) で開催する予定で同意した。

19. ORCメジャー部会と制度について

CR部会とセイルメジャー部会があるようにORCメジャー部会を設けることについて討議を行った。委員会組織の細分化は良いとの意見があったが、検討時間不足のために今後の検討課題とし、ORCメジャー制度の検討とともに、6月6日 (土) 1300より名古屋にてORCメジャー会議を開催して検討することとなった。

20. ORCメジャー実績報告

IMSの計測員別の実績報告の一覧 (1997年計測員別計測実績報告) が配布された。

21. ORCメジャー名簿

大橋計測委員長より、豊田委員が花川ORCメジャーのもと約2年のアシスタントを行って経験を積み、花川メジャーからの推薦状 (配布資料) とメジャー申請レポート (配布資料) が提出されたので、メジャーとして認定したい旨の申し出があり、一同同意した。よって、配布資料のORCメジャー名簿に豊田委員を加えることになった。また、斉藤委員が大橋委員長のもとアシスタントとして約1年の経験を積み、来年のメジャー認定を考慮中との報告があった。

22. IMS計測証書発行実績

矢嶋委員より、配布資料 (1997年 計測証書発行関係 実績報告) に基づき、NORCレーティングオフィスでの証書発行数と協会からORCへのレベイ支払いの報告があった。

23. IMS計測実務について

矢嶋委員より、IMS計測関係 一般配布資料 リスト (配布資料) にオーナーなどからの問い合わせに対する配布用の各種案内が添付されている旨の説明があり、改正すべき事項などがあれば教えて欲しいむねの依頼があった。

実測については、ルール本がまだ届いていないが、ORC議事録から、PLMの最小値が2000.0mmになったのでマノメータの改造が必要なことと最大PD値の計算式が変わったことの注意が、矢嶋委員より

りあった。

24. ORCクラブレーティングについて

@大橋計測委員長からの報告

・1998年1月デュッセルドルフORCシンポジウム出席報告

・ORC「クラブ」レーティングについて、現在までに明らかになっている資料の紹介と解説

・各国の取り組み状況

・先日開催されたCR会議では、「この件に関しては2年3年の長いスパンでとらえ、真近の行動については、まず資料と情報の収集に努めるべきだ」という空気が支配的であった

・同CR会議後に到着した、各国語によるORC「クラブ」宣伝パンフレットに関する原稿要請状況の紹介とその政策的的重要性

・ORC「クラブ」レーティング算出プログラムは2月に完成する

@CR会議の空気を支持する意見が多数

・それに加えて、一般会員への資料と情報の公開を求める意見多数

・資料と情報の公開、特にその和訳作業には、調査費用が必要

・出席理事から「予算措置については積極的に考慮する」との意見あり

@ORC「クラブ」の計測データ収集法 (特に、申告データ, 統計データ) に対する不信心

、不安感、の意見が多数

・計測データのオーナー申告というシステムは日本にはなじまないのではないかと

・増山委員: 現在のCR計測データのほうが上記ORC「クラブ」(申告, 統計) データより質が高いため、これをORC「クラブ」でも利用する方法を考慮すべきである

@ORC「クラブ」については、技術的、事務的な検討と同時に (あるいは、これに先立ち) 政策的な検討が必須である

・特に、前出のORC「クラブ」宣伝パンフレットの原稿提出には、これに先立つ政策的決定が早急に必要である

・尾島理事: この2点について政策関係の理事会・委員会で検討し決定を計る

以上をもって21時会議は閉会した。

1998年版 NORC クルーザーレーティング

本部計測委員会クルーザーレーティング部会

1.目的

NORCクルーザーレーティングルールの目的は、多くのヨットが気軽にレースを楽しむことにある。

参加者は、レースコミッティーを信頼して応援し、レースコミッティーはできるだけ多くのヨットにレースを楽しんでもらうために、大局的な視野に立ってシステムの運用を計ってほしい。

2.CR95→CR98 (Ver6→7) の主な変更点

CR95でカバーできない、フリーとクローズで性能差の著しい艇や、IMSデータとの逆転問題などを改善し、より多くの艇により公平なハンデキャップを付与する為、IMS艇のデータシミュレーションを行った結果、98年版にて大幅なルール変更を行う。

尚、98年版は1997年11月30日に開催された計測委員会CR部門全国連絡会議にて採用された。

(1) レーティング、セールエリアを風域、UP WIND、DOWN WIND 別に細分化。

(2) 各種ファクターの見直し

a. MF (マテリアル・ファクター)

カーボンマストのファクター軽減、カーボン ラダー/シャフトのファクター廃止、およびカーボン ハルのファクター変更

b. RF (リグ・ファクター) の細分化

ランナー付きフラクショナル・リグおよびスクーナーのRFを追加。

c. バテン無しメインセールに対しての救済 (リーチ・ローチ分のセールエリア補正)

d. 3翼ソリッドベラのファクター変更

e. AF (船齢ファクター) の変更

f. WF (ウエイト・ファクター/ウェット ガース ファクター) を廃止し、DC (ドラフト コレクション)、FC (フリーボード コレクション) を採用

(3) 基本式の $(2/3 \times G \times G/W)$ の代わりに浸水面積の代表値 (L/W) を採用

(4) クラス分けなどの目的でGTA (ゼネラル パーパス タイム アローワンス) を採用

3.運用基準

(1) 本ルールは、NORC本部計測委員会クルーザーレーティング部会が統轄し、各支部又は支部間統括CR委員会が管理する。

(2) 計測証書は、各支部が任命した計測員が計測したデータに基づいて各支部より発行され、各支部又は支部間統括CR委員会の責任者が署名して有効となる。

(3) 計測証書の有効期限は2001年2月末までとし、以後3年毎の2月末までを定期更新期限とする。有効期限の過ぎた証書を持つ艇は、各支部で定められた証書更新手続きをすることにより新しい証書の発行を受けることができる。

(4) 各支部計測委員会クルーザーレーティング

部会、又は支部間統括CR委員会は、レーティングの値について疑問がある場合には、再計測および証書の再発行を行うことができる。

(5) 計測員は、計測にあたり本部計測委員会クルーザーレーティング部会において決定されたスタンダードデータをもちいることができる。計測に際してスタンダードデータを採用するか否かは、計測員の判断によるものとする。

(6) 各支部計測委員会クルーザーレーティング部会又は支部間統括CR委員会の責任者は、適正なレーティングを与えられないと認めた艇種に対し適正なHSC (High Speed Correction)を与えて証書を発行することができる。この場合、HSCの項目で証書に記載する。

(7) レース委員会は第1項の目的を実現するため、下記の場合に各支部計測委員会クルーザーレーティング部会又は支部間統括CR委員会と協力して、レース参加艇に対して適当なHSCを該当レースのみ与えることができる。

a 地域の気象の特性や予想されるレース状況によって、明らかに公平とは認められない場合。

b 参加艇の特性 (改造、ルール対策を含む) が明らかに第 (6) 項のHSC適用艇種と同様にHSCが必要と認められる場合。

なお、CR98ではHSCはTAに対するパーセンテージで表示され、かつ証書上ではTAに反映されていないので、レース成績算出時必ずHSCを算入する。(HSCを付与した場合) 又、CR95で付いていたHSCは全て無効となり、CR98では今のところHSCが必要な艇種は見つからない。

4.レーティング算出式変更分

(1) 基本式

$$R = (L - 1.8 \cdot (L \cdot W)^{0.5} + RF \cdot S^{0.5} + DC + FC) \cdot PF \cdot MF \cdot AF$$

$$RU = (L - 1.8 \cdot (L \cdot W)^{0.5} + RF \cdot SU^{0.5} + DC + FC) \cdot PF \cdot MF \cdot A$$

$$F$$

$$RD = (L - 1.8 \cdot (L \cdot W)^{0.5} + RF \cdot SD^{0.5} + DC + FC) \cdot PF \cdot MF \cdot A$$

$$F$$

(2) セールエリア

・ヘッドセールエリア

$$SAF = 0.5 \cdot JL \cdot (LPG + FSP)$$

$$SAFU = \min(0.5 \cdot T \cdot J, 0.75 \cdot SAF)$$

・スピンエリア

$$SSPA = 0.6 \cdot SL \cdot 0.5 \cdot (SMW + 1.8 \cdot SPL)$$

$$ASPA = 0.6 \cdot ASL \cdot 0.5 \cdot (ASMW + 1.8 \cdot JS)$$

$$SPA$$

$$= \max(SAF, SSPA + 0.2 \cdot ASPA, ASPA + 0.2 \cdot SSPA)$$

・メインセール

バテン無しのメインセールの場合:

$$EC = 0.85 \cdot E$$

・トータルセールエリア

$$S = SAM + SAF + SAZ$$

$$SU = SAM + SAFU + SAZ$$

$$SD = SAM + SPA + SAZ$$

(3) ドラフト

・ベースドラフト

$$DB = 0.279 \cdot L \cdot (1 - 0.015 \cdot L)$$

・キール深さ

$$D = 0.5 \cdot (GMAX^2 - BMAX^2)^{0.5}$$

FBM

・ドラフトコレクション

$D \leq DB$ の場合:

$$DC = 0.07 \cdot L \cdot (D / DB - 1)$$

$D > DB$ の場合:

$$DC = 2 \cdot 0.07 \cdot L \cdot (D / DB - 1)$$

(4) フリーボード

・ベースフリーボード

$$FB = 0.0385 \cdot LOA + 0.578$$

・フリーボードコレクション

$$FC = 2 \cdot (FB - FBM)$$

(5) リグファクター

マストヘッドスループ: $RF = 1.00$

ランナー無しフラクショナルスループ:

$$RF = 1.00$$

ランナー付きフラクショナルスループ:

$$RF = 1.01$$

ヨール: $RF = 0.95$

ケッチ: $RF = 0.90$

スクーナー: $RF = 0.90$

(6) プロベラファクター

3翼ソリッドベラ: $F = 0.92$

(7) エージファクター

$$AF = 1 - 0.005 \cdot (1989 - AFD)$$

AFDが、1988年以前の艇に適用、それ以外の艇はAF=1とする。ただし、AFは、0.900以上とする。

AFD:SDYとMHDの内、遅い方の年とする。

・シリーズデートの定義

SDY:艇種毎のシリーズデート。同型艇で一番早く進水した艇の進水年月。

同型艇とは、メーカーまたは造船所の標準モデルから、ハル・キールに変更が無い艇とする。

・艇の改造

MHD:改造デート。

メーカーまたは造船所の標準モデルから、ハル・キールに変更があった場合、明らかに改造日が特定できる場合を除き改造後の初回計測年月。

(8) マテリアルファクター

$$MF = MFS \cdot MFH$$

・スパー (ただしスピニングを除く)

カーボン: $MFS = 1.023$

その他: $MFS = 1.000$

・ハル

カーボン: $MFH = 1.020$

その他: $MFH = 1.000$

・ラダー/ラダーシャフト

廃止

(9) タイムアローワンス

・Ocean Racing

風速5m/s未満:

$$TA1 = 0.3 \cdot 1995 / R^{0.37} + 0.7 \cdot 0.94 \cdot 1775 / RD^{0.37}$$

風速5m/s~9m/s:

TA2=0.2*1595/RU^0.39+0.8*0.94*1155/RD^0.35
風速9m/s超:

TA3=0.05*1720/RU^0.45+0.95*0.94*995/RD^0.34
4

・Round Buoy
風速5m/s未満:

TA1=0.6*1995/R^0.37+0.4*1775/RD^0.37
風速5m/s~9m/s:

TA2=0.6*1595/RU^0.39+0.4*1155/RD^0.35
風速9m/s超:

TA3=0.6*1720/RU^0.45+0.4*995/RD^0.34
・GTA(General Purpose Time Allowance)

GTA=(TA1(OR)+TA2(OR)+TA3(OR)+TA1(R

B)+TA2(RB)+TA3(RB))/6
・TMF

TMF=600/GTA

5. レース結果の計算:

(1) タイム・オン・ディスタンス(TAの場合)

CT 修正時間 (小数点第1位を四捨五入し、秒単位で表す。)

ET 所要時間

TA タイムアローワンス

DIST 距離 (nautical mile)

修正時間CTが小さい(マイナス値となることもある)艇を上位とする。

レースコミッティーは、使用するコースタイプを知らせる。

(2) タイム・オン・タイム(TMfの場合)

(3) PLSのスタンダード・スクラッチボートのTA (OR、RBとも共通)

TA1:TAS=510

TA2:TAS=330

TA3:TAS=258

*クルーザーレーティングの更新手続方法および新規計測申込み手続方法はNORC各支部毎に異なりますので、各支部事務局へ問い合わせしてください。

*関東水域の場合、手続方法、申込書がFAXサービス(注)に入っておりますので、その手順でお願いいたします

(注)FAXNo 03-3452-8377

BOX. No. 0005(案内)

BOX. No. 0007(申込書)

各支部お知らせ

関東水域FAXサービス

音声のガイドに従い、ゆっくり操作して下さい。
(長々時間お話中の時は、044-244-2944までご一報ください)

会務関係:03-3452-8355 総合メニュー BOX番号 1111

IMS・無線情報は8355です。

レース関係:03-3452-8377 総合メニュー BOX番号 0000

CR・特別規定検査は8377です。

経費の更なる削減のため、ハローダイヤルとの契約は4月30日までです。

044-244-8600のハローダイヤル・サービスは5月からなくなります。

おわかりにならないことは、直接、所属の支部へお問い合わせ下さい。

旧関東支部の「1997年決算」は、監事の監査を経て、去る、2月14日の本部代議員会のおり、報告、了承を得ました。70万程度の黒字で、新支部準備金として新支部に配布しました。なお、全代議員会にて、決算書類を送付済みですので、会員におかれましては、点検のほど、お願いいたします。

また、書類お手元に必要な方は、4月末日までに所属する新支部事務局までお申し出ください。お送りします。(旧関東支部会計担当理事山本高靖)

関東水域連絡会議はじまる

新支部が4つでスタートしたこと、レース、情報の交換、共通事項の連絡などのために、「連絡会議」を設けています。事務連絡会議、無線関係連絡会議、レース連絡会議など、必要に応じて開かれています。

また、各新事務局の担当する会員数も500名前後となり、会員へのサービスは厚くなったとの声をいただいています。

会員は、出来るだけ、FAX・ハガキをご利用いただき、事務局の勤務に差し支えなきよう、ご配慮をお願いします。

1998年度相模湾水域レース参加資格一覧表

備考		ORC 特別規定検査	レース艇登録 (支部へ)	NORC 艇登録	会友艇の出場	計測証書の有無
○ 必要又は参加可能 × 必要無し又は参加不可 △ 参加クラスによっては必要無						
日 程	レース名					
1/2	新春レース	×	×	○	○	○
3/21.22.28.29	逗子IMSレガッタ	○	○△	○	○	○△
4/4	初島卯月レース (KSC1戦)	○	○	○	×	○
4/26	湘南ゴールデンウィークレガッタ	×	×	○	○	×
5/2.3.4.5	ミドルボート選手権	○	○	○	○	○
5/23.24	大島レース (KSC2戦)	○	○	○	×	○
6/6.7	油壺-伊東レース	×	×	○	○	○△
6/28	ダブルハンドレース	×	×	○	○	○△
7/4	初島レース (KSC3戦)	○	○	○	×	○
7/20	相模湾オープンレース	×	×	○	○	○△
〃	ウッディヨットレース	×	×	○	○	○△
7/18.19.20	鳥羽レース	○	○	○	○	○
8/1.2	トウキョウズカップ	○	○△	○	○	○△
8/30	三崎支部オープンレース	×	×	○	○	○
9/未定	御蔵島レース (KSC4戦)	○	○	○	×	○
10/3.4.10.11	関東選手権 兼 (KSC5,6戦)	○	○	○	×	○
10/17.18	〃	○	○	○	×	○
11/7.8	小網代カップ (KSC7戦)	○	○	○	×	○
11/22	逗子マリーナカップ	×	×	○	○	○△

※レース毎に参加資格変更があり得ますので、必ず実施要項にて確認して下さい

支部事務所・連絡先など一覧

	東京湾支部	三崎支部	三浦支部	湘南支部
TEL	03-3632-0528	044-244-2944	010-779-1024	0468-53-5267
FAX	03-3633-3098	044-233-1658	045-973-9334	0468-53-7250
-MAIL	TOBITOKYO@msn.com	volansnobi@aol.com	-	kensaku@city.fujisawakanagawa.jp
専用FAXサービス	-	03-3452-8355内	-	0468-53-5271
事務所	130-0026 墨田区両国3-2-1 内藤 恒夫 方	210-0023 川崎市川崎区小川町8-21 高田 蘭科内	227-0047 横浜市青葉区みたけ台21-4 石光 真和 方	238-0032 横須賀市平作8-23 大野 健作 方
フリート (NORC)	千葉フリート、東京フリート、 東京中央フリート、横浜フリート、 浦賀フリート。	油壺京急フリート、諸磯フリート、 油壺フリート	シーボニアフリート、小網代フリート、 佐島フリート	葉山フリート、逗子フリート、 江ノ島フリート、熱海・伊東フリート、 下田フリート
水域	千葉県側の東京湾口から剣崎までの水域。	剣崎から網代崎までの水域	網代崎から佐島まで	葉山から下田までの水域
マリーナ等	横浜ベイサイドマリーナ、 ヴェラシス等	-	小坪マリーナ等	-
支部の選択	<特別会員>は、艇が係留されている場所により所属支部が自動的に決められます。 <正会員>は、所属する支部を自由に決められます。よく乗る艇がある場所の支部に所属するのが何かと便利。			
関東4支部間の移動	<特別会員>は、艇の係留場所が変わらない場合、支部の移動はできません <正会員>は、ご自分の都合により、毎年4月11日から10月31日までの間なら、関東水域間の支部移動は可能です			
新入会時振り込み口座 その他、一切の振込み口座	住友銀行 両国支店 (普) 212924 口座名:NORC東京湾支部	東海銀行 大井町支店 (普) 1055672 口座名:NORC三崎支部	住友銀行 青葉台支店 (普) 733668 口座名:NORC三浦支部	第一勧業銀行 衣笠支店 (普) 1888353 口座名:NORC湘南支部



関東水域無線

関東水域の無線について、4支部と通信委員会とが話し合い、本年は、暫定的に、関東支部時代の延長で運用し、追々、全体像を考えることとなった。また、本部でも無線に関する検討プロジェクトチームが発足する見通しとなった。

第2回関東水域4支部通信委員会連絡会議 議事録(抜粋) 1998年2月24日

本年は従来の関東支部の引き継ぎとして両局の固定費を4支部にて分担することとするが、それぞれの意見を反映させた結果、以下の通りと確認する。なお本案は、各支部に持ち帰り了解を求める。

- 1) 本案の経費負担については、ほとんどが固定費でありこれ以上の縮小はできない。一部本部負担として98年度予算には盛り込み済み。
- 2) 経費は当座97年度実績の引継とし、各支部負担部分を今後出来るだけ軽減する策を考慮・実行する。
- 3) 各支部への負担割合はいろいろ考えられるが、処理の複雑さを勘案し、支部所属構成員の人数比で案分することとする。
- 4) 必要経費の軽減案(原資を他に求める)は別途検討。会員登録、艇登録規定の改訂に準じた海岸局加入利用料の改訂などが考えられる。
- 5) 両局経費案を別掲項目のとおりとし遠隔操作回線費用は除く。
- 6) みやけ局遠隔操作回線費用は、利用時点での

- 負担とし、例えば操作員の現地派遣、期間限定の回線利用、レース費にて支弁等で対応する。
- 7) 両局の運営については、4支部の持ち回り当番とする。この順番・期間・方法等については委員会にて別途協議する。法定点検(定期検査等)は、次項の委員が参加実施する。
- 8) 両局の管理・操作要員として、各支部有資格者2名以上の選任従事者を登録する。選(解)任届は本部通信委員会にて手配する。
- 9) 両局の運用は、電波法に準拠し前項の要員が行う。従ってレース等イベントでの無線局利用は、主管支部担当が十分な余裕を持ってアサイン願う。
- 10) 加入証明書発行申請は、各支部で手数料受領と共に受付を行う。発行は本部へ依頼する。つまり「発行申請料振込(証明)書」と「発行申請書」を支部毎にFAXで受け付ける方式とし、このため新たなFAX取り出し資料を準備する。
- 11) 簡易無線の管理は、正常な利用の維持、相模湾に集中する利用などから当面三浦支部で管理、貸出はリクエストに応じる。
- 12) 関係情報伝達については、従来のOFFSHORE、Webも利用するが、原則支部連絡網(郵便等)を活用する。通信委員間の情報伝達は、費用・労力負担軽減のため電子メール(インターネット、PC通信)、FAXとする。情報転用の面からは電子メールが望ましい。
- 13) 新体制での運営は、4月1日とする。

三崎支部より
オフショア回帰のアピール

はや桜の花芽が日々膨らむ季節に入り、各位におかれては、すでに愛艇の整備万端に整い、ご活躍のことと想います。

さて、われらのセーリングシーンを振り返ると、インショアレースの興隆に対比して、オフショアレースは衰退の一途にあります。かつて、様々なドラマとともに、次代への確実なメッセージを残した、沖繩、小笠原、グアムの各レースはもちろんのこと、八丈島も、三宅島も絶えて、すでに久しい年月が過ぎました。他のワンオーバーナイトに過ぎない島周りレースもエントリー数の著しい減少に見舞われています。理由は、様々に考えられますが、海で遊ぶ選択肢を改めて拡げる意味で、ここにオーシャンゴーイングの醍醐味の復権を、アピールする所存です。したがって、最初の試みとして、下記の案を企画しました。

仮称：八丈島セーリングラリー

日時：5月2日から5日

第1レース：2日12:00 小網代浮標付近をスタート、フィニッシュ八丈島神湊港沖

大宴会：3日夜

注：各艇の協議によって帰りのレグを第2レースにする場合は、4日12:00 八丈島神湊港沖をスタート、小網代浮標付近でフィニッシュ

中宴会：5日夜 ABYCクラブハウス

レーティング：IMSとCRを統合した独自の簡易値を設定

東海支部より

12th NTT ERIKA CUP YACHT RACE in GG 参加艇を募集します

実施要項

企画：蒲郡エリカ号保存会
 主催：社団法人 日本外洋帆走協会 東海支部
 共催：愛知県ヨット連盟
 後援：蒲郡市・アメリカズカップ蒲郡基地協力会
 協力：ニッポンチャレンジアメリカ杯2000委員会
 ・三谷漁業協同組合
 特別協賛：NTT
 開催日：平成10年5月23日（土）・24日（日）

プレ企画パート1/市民体験模擬レース

スタート/5月23日（土）12:30（乗船11:30）
 ボランティア艇による市民招待の模擬レース。

参加可能な艇は申込の際に申し出て下さい。
 詳細を連絡します。

プレ企画パート2/ビギナーズセミナー

デート/5月23日（土）14:00～15:00
 蒲郡市民会館会議室にて解り易い実戦ヨットレースの講義を行います。参加希望の方は申込書に記入して参加下さい。

レース/

「第12回NTTエリカカップヨットレースin蒲郡」

スタート/5月24日（日）クルーザー部門 10:00
 レーサー部門 10:20
 コース/蒲郡三河大島沖 約5マイル（艇長会議にて指示）

適用規則/1997～2000

国際セーリング競技規則（RRS）

NORC外洋レース規則1997

大会帆走指示書及び艇長会議に従う。

本大会は、RRS付則G カテゴリーAの大会として種別します。

出艇申告/5月23日（土）15:00～15:45

蒲郡市民会館 中ホール入口

艇長会議/5月23日（土）15:45～17:00

蒲郡市民会館 中ホール

参加資格/クルーザーヨットで小型船舶検査合格艇（船検）乗員3名以上

◆有効なセールNoが必要
 （無い方は事務局までご相談下さい）

レーティング/NORCクルーザーレーティング98

部門分け及びクラス分け/

申込み締切り後、レース委員長にて決定。
 責任の所在/ヨットレースの国際ルールに基づき、レース艇がスタートするか否か、レースを続行するか否かなどの決定は各艇の責任で行うものでレース主催・運営者は、参加者、艇の傷害・

損害に対して一切の責任を負いません。

前夜祭/5月23日（土）17:15～18:45

場所:ニッポンチャレンジ蒲郡ベースキャンプ

芝生広場

一人1,000円 チケット制 一般入場可

パーティー及び表彰式/5月24日（日）13:00～15:00

場所:ニッポンチャレンジ蒲郡ベースキャンプ

芝生広場

一般入場可

レース参加申込み/5月10日までに参加料を下記に振込の上、専用申込書でFAXして下さい。

専用申込書が無い方はFAXサービスで取って下さい。

手続き確認後、帆走指示書（パンフレット）を送ります。

参加料/1艇

NORC特別会員登録艇、会友艇登録艇 10,000円

NORC非登録艇 13,000円

別に1人1,000円、2名義務付の2,000円も一緒に振り込んで下さい。

◆パーティーの3人目以降のチケットは当日会場にて販売します。

参加料振込先/東海銀行 桜通支店 普通口座
 1309686

口座名 （社）日本外洋帆走協会 東海支部

◆振込人名は、艇名 セールNo.を記入して下さい。

◆レース参加料は、不参加でも返却しません。

NORCがレースの取消・中止をした場合のみ、それまでの運営費用を差し引いた後、返却します。

「第12回NTTエリカカップヨットレースin蒲郡」実行委員会

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-21 丸の内東桜ビル902号 （株）ミヤコ内

NORC東海支部

電話 052-971-5835

申込専用FAX 0566-52-6833

FAXサービスは 052-971-5836で取り出せます。

“航行中は
 NORCエンサインを
 掲げましょう。”

‘98JAPAN CUP OFFSHORE SERIESへのお誘い (実施要項抜粋)

主 催:社団法人 日本外洋帆走協会東海支部

主 管:JAPANCUP'98実行委員会

開催地:三重県五ヶ所湾沖 (ヴィーヴルオーシャンクラブ, SYH)

参加資格

1) ORC特別規定:カテゴリー3を適用。

ORC特別規定の修正:乗員の1/2が乗れるライフラフトを搭載していること。

2) 1998年の有効なIMS計測証書を所有している艇であること。

3) 乗員はNORC会員が1/2以上でなければならない。

4) ヨット保険の賠償責任保険、搭乗者傷害保険、捜索救助費用保険に加入している艇。

参加申込

参加料:1艇 150,000円 乗員登録は無料。

個別広告表示 (カテゴリーB) 艇は上記金額の2.0倍とする。

係留料:10月23日 (金) ~ 11月25日 (日) までのVOC係留は無料。

申込先:1998年8月31日 (月) までにNORC東海支部JAPANCUP'98実行委員会へ所定の用紙で申し込むこと。

実施要項

詳細は1998年3月31日 (火) までにNORC東海支部JAPANCUP'98実行委員会で用意される実施要項をご覧ください。

プログラム

10/25 (日)	09:00	インスペクション (説明会 於名古屋)
10/30 (金)	09:00	インスペクション (プリレースインスペクション)
10/31 (土)	08:00	インスペクション (クルー体重測定のみ)
	10:00	艇長会議
	12:50	第1レース 予告信号
		風上/風下レース (約14マイル)
	18:00	ウェルカムパーティー 無料
11/1 (日)	09:50	第2レース 予告信号
		風上/風下レース (約14マイル)
		第3レース 予告信号
		第2レース終了後約40分後
		風上/風下レース (約14マイル)
11/2 (月)	08:50	第4レース 予告信号
		ショートオフショアレース (約60マイル)
11/3 (祝)	09:50	第5レース 予告信号
		インショアレース (約25マイル)
11/6 (金)	08:50	第6レース 予告信号
		ロングオフショアレース (約130マイル)
11/7 (土)	18:00	オーナーズパーティー 無料
11/8 (日)	09:50	第7レース 予告信号
		風上/風下レース (約14マイル)
	15:00	表彰式

問合せ先 NORC東海支部JAPANCUP'98実行委員会
 名古屋市中区丸の内3-21-21
 丸の内東桜ビル902号 (株)ミヤコ内
 TEL 052-971-5835
 FAX 0566-52-6833

JCI-NORC意見交換会(小型船舶関係懇談会)

法制委員会 渡辺 康夫

1 会議概要

(1)日時:1998年2月19日(木) 14:00~16:30
 (2)場所:日本小型船舶検査機構7階第一会議室
 (3)出席者:JCI 山本理事、萩原理事、小崎検査部長、武山企画部長、久松技術部長
 NORC 尾島専務理事、加藤常務理事、林JCI評議員(技術委員長)、高田理事 渡辺理事(法制委員長)

2 意見交換内容

(1)マストトップ3色灯の機走灯としての使用等について(JCI)
 ・NORCからの提案に基づき、IMO専門家委員会での検討を要請しており、1998年5月からIMOでの審議がスタートする。
 ・小型船舶用の号鐘の簡易化に関してもIMOに提案している。
 (2)航海用具の見直しについて(JCI)
 ・運輸省内で航海用具の見直しに関する委員会

を1997年11月に開催した。
 ・現状に即した航海用具を選択すべく、省令の改正を検討している。
 ・対象項目として、時計、ラジオ、気圧計、セキスタント等があげられている。
 (3)小型船舶の技術について
 ・NORCの技術的業務の処理・検討をアウトソーシングするオフショアヨット技術センターを設立するので、ご支援をお願いしたい。(NORC)
 ・研究の要望があればJCIで検討するので申し出てほしい。(JCI)
 ・小型船舶の規格を国際的に統一する考えがある。例えば、EU内での統一、ISOの採用(ORCもISOをreferしている)等。(JCI)
 (4)GMDSSについて
 ・小型船舶用EPIRBについては、電波管理局に開局を申請をしており、IDがあれば備品として認めている。(JCI)
 ・GMDSSはグローバルなシステムで国際的な規格の基で運用されているので、機器について海外製品の国内使用を認めてほしいが、機器の規

制緩和は郵政省の働きかけで行く。(NORC)
 (5)ORC Special Regulations 1998-1999
 ・ORC Special Regulations 1998-1999をJCIに提出して、3.01.3ScantlingsのCertificateの発行について、JCIに検討をお願いした。(NORC)
 (6)その他
 ・NORCからの要望事項については、オーナーの立場とユーザーの立場で背反する場合もあり、要望を再度整理してから打ち合わせを行いたい。(NORC)
 ・土日における検査の実施について検討したが、要員の配置が困難であり、また昨年7月から、検査を3ヶ月まえから受検できるように制度を改正したので、その範囲で受検をお願いしたい。

編集室通信

「エーゲ海セーリングラリーのご案内」

はなはだしく魅力的なタイトルの案内状が、ギリシャ政府観光局駐日代表部から届きました。日程は、今年の7月10日に始まり22日がフィナーレの表彰式とパーティー。イベントの内容は、アテネのファリロン港をスタートしてパロス島までの90マイルが第1レース。パロス島から98マイル先のサモス島までが第2レース。第3レースはサモス島からヒオス島まで。距離は64マイル。最終の第4レースはヒオス島からアテネのウリアグメ港に戻る125マイル。島々では、島内観光と各レースの表彰式およびパーティーがセットされているという、われらNORC周辺の環境と比べると、エーゲ海の陽光が明る過ぎて目が痛くなるようなノーツィスです。ハワイのイベントとは、また異なった雰囲気です。主催はビレウスのHELLENIC OFFSHORE RACING CLUB。HORC will assist overseas sailors to charter first class racing boats of specially discounted prices.というコメントもあります。国内のギリシャ政府観光局の問い合わせ先は、tel03-03505-5917。何方からの眩しいレポートを期待します。

編・集・後・記

硬い内容で埋まっているオフショアなど大半の会員は読んでいないと、先日の代議員会で伺いましたが、ご発言の通りだと思います。だいたいがスタッフ自身が校正のときなどに飽きてしまって、つい間違いを見逃している始末です。しかし只今現在の状況では、執行部が何を考え何を行おうとしているのかをお伝えするのが、優先順位としてトップになります。いましばらくは退屈な官報まがいで我慢してください。なお、今回は高田常務の提案と舵社のご好意で、タブロイド版からA4版に変更しました。読みやすく保存も楽になると思います。もひとつ、昨年末から半端な形で編集作業を続けてきましたが、来月からは、ようやく正式なスタッフが揃います。大きなお約束はできませんが、ちょっぴりは期待してください。(H)

事務局通信

ディファレンシャルGPS(DGPS)のサービスエリアの拡大について

全世界的衛星測位システムのGPSは、すでに会員多数の方々が利用されていることと思いますが、短時間に数十メートル船位が変化するSAがあるため、安定したより正確な位置が求められていました。海上保安庁ではこれを解決するため、精度が数メートル程度となるDGPS局を整備することになり、すでに昨年3月から神奈川県「釧崎」及び三重県「大王崎」に設置されましたが、このたび本年4月から宮城県「金華山」、千葉県「犬吠崎」、東京都「八丈島」、兵庫県「江崎」(淡路島)、愛媛県「大浜」(来島海峡)、愛

媛県「瀬戸」(佐田岬半島)、高知県「室戸岬」、鳥根県「浜田」、福岡県「若宮」(玄界灘)、長崎県「大瀬崎」(五島列島)、宮崎県「都井岬」の11ヶ所にて業務開始するとの情報を得ました。サービスエリアは無線局から約200km以内の海域で、このたびの整備で本州太平洋沿岸から九州周辺海域まで連続して測位出来ることになります。

DGPSを利用する場合は、DGPS対応型受信機とDGPSビーコン受信機が必要で

最新刊

実戦ヨットレース・ルール解説 1997~2000

ブライアン・ウイリス 著/石井正行 訳
 B5判/96頁/定価 本体1,900円(税別)

大幅な改訂が行われた新ルール解説の決定版。ヨットレースにおけるさまざまなシチュエーションを想定し、この場面では“君はどうすればいいか”という点に的を絞って、豊富なイラストと簡潔な文章で解説。

KAZI BOOKS

舵社流通課

直通 TEL.03-3434-4531 FAX.03-3434-2640



※交通の便 JR田町駅、都営地下鉄三田駅より北
西方向に徒歩8分
月曜日～金曜日 9:30～17:30 [ただし12:00～13:00
昼休み時間] 土・日曜 休業

